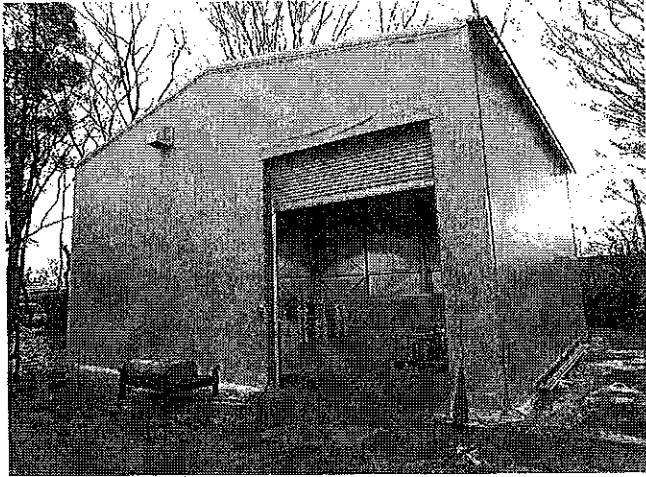


平成24年(2012年)2月3日 (金曜日)

(第三種郵便物認可)



検査用薬品の処理棟建設

大和合金、環境対応を強化

銅合金鑄造・鍛造メーカの大和合金(本社・東京都板橋区、社長・萩野茂雄氏)は生産部門の三芳合金(埼玉県三芳町)で浸透探傷検査の薬品処理棟(写真)を建設し来月中旬をめぐりに稼働させる。品質に気を使う製品が増えており検査が多くなる中、環境対応を強化する。建屋面積は100平方メートル。投資額は約1千万円。

浸透探傷検査は、材料表面に赤色の染色液

を塗布し拭き取った後に、微細な粉末を吹き付ける手法。傷があれば

ば浸み込んだ検査薬が表面に広がり、目視で発見できる。

建屋は約800万円。昨年12月に建設。マツケンの排水処理装置、ノンオイルミニ200型を約1500万円で購入した。染色液の処理設備は、薬剤を入れて成分を分離して濾過・回収するもの。装置では1回に200リ

の浄化が可能。現在は処理場に搬入し掘付の準備を進めている。